vol.379

“馬は馬方、餅は餅屋、情報はマック”
THE MAC JOURNAL
三菱商事アグリサービス株式会社

◆2012年2月8日発行ラインナップ◆
・平成23年産コメ食味ランキング
・全肥商連・全複工共催賀詞交歓会
・2012年スギ・ヒノキ花粉

平成23年産コメ食味ランキング

日本穀物検定協会が7日、平成23年産米の食味ランキングを発表した。米の食味ランキングは、炊飯した白飯を実際に試食して評価する食味官能試験に基づき、昭和46年産米から毎年全国規模の産地品種について実施している。食味試験のランクは、複数産地コシヒカリのブレンド米を基準米とし、これと試験対象産地品種を比較しておおむね同等のものを「A’」、基準米よりも特に良好なものを「特A」、良好なものを「A」、やや劣るものを「B」、劣るものを「B’」として5段階で評価を行い、この結果を毎年食味ランキングとして取り纏め、発表している。

平成23年産米については、129産地品種について食味試験を実施し、ランキングを見ると、特A評価は過去最多の26品種がランクインするという結果。特に最近、TVでCMが流れている北海道の「ゆめぴりか」は種子管理から販売基準まで厳しい条件を課しており、北海道産の高級良食味米として販売されている。九州では、5品種がランクイン。佐賀県産「さがびより」が前年産に続き、最高ランクの特Aに選ばれた。市場評価を確立するために生産者や県、JAが一体となって「特A連続獲得」を目指していた。

特A連続受賞は、26品種中19品種。新潟の魚沼「コシヒカリ」・宮城「ひとめぼれ」などは、20数年連続特A受賞と安定してレベルが高い。

＊食味官能試験は、専門パネルにより供試品と当協会が定めた基準米について、評価項目（外観・香り・味・粘り・硬さ・総合評価の6項目）に関して比較評価する相対法により行われている。

地域	地域	品種名	ランク
北海道	全道	ななつぼし	特A
		ゆめぴりか	特A
岩手	県南	ひとめぼれ	特A
山形	全県	コシヒカリ	特A
		はえぬき	特A
		ひとめぼれ	特A
		つや姫	特A
宮城	県北	ひとめぼれ	特A
	県中	ひとめぼれ	特A
福島	会津	コシヒカリ	特A
		ひとめぼれ	特A
	中通	ひとめぼれ	特A
新潟	中越	コシヒカリ	特A
	魚沼	コシヒカリ	特A
	岩船	コシヒカリ	特A
	佐渡	コシヒカリ	特A
長野	北信	コシヒカリ	特A
栃木	県北	なすひかり	特A
三重	伊賀	コシヒカリ	特A
京都	丹後	コシヒカリ	特A
奈良	県北	ヒノヒカリ	特A
福岡	全県	元気つくし	特A
佐賀	全県	さがびより	特A
長崎	県南	にこまる	特A
熊本	城北	ヒノヒカリ	特A
		森のくまさん	特A

全肥商連 ・ 全複工共催賀詞交歓会

1月23日全肥商連全複工共催賀詞交歓会（会場；東京ガーデンパレス）が、全国から多くの肥料商、メーカー各社が一堂に集まり開催された。恒例の特別講演は、農業の六次産業化をテーマに、農水省食料産業局長　針原寿朗氏による『農林漁業・農山漁村から日本を元気に』、と同局総務課ファンド企画室ファンド企画官岸憲正氏の『農林漁業成長化ファンド（仮称）の概要』について説明があった。

まず、今回5つの局をまとめて新たにつくられた食料産業局は、「農林漁業・農山漁村から日本を元気に」することを狙って「食の産業」育成を図る組織であるとの説明がなされた。当面の鍵として3

（次ページへ続く）

（前ページより続く）

つの課題にチャレンジしていく。①“農林漁業の成長産業化”、それを支援するためのファンド創設、②“原発で落ち込んだ輸出戦略の建て直し”、食の安全に対する信頼回復、食文化の提案、③“再生可能エネルギーの推進”、例えば耕作放棄地を集積し太陽光発電の推進、その為の規制緩和、規制の撤廃等を進め民間の取り組みを支える。成長へ向けてイノベーションによる農山漁村のポテンシャルの発現と活性化に貢献していくという力強い講演だった。

もしもの時に―経営セーフティ共済

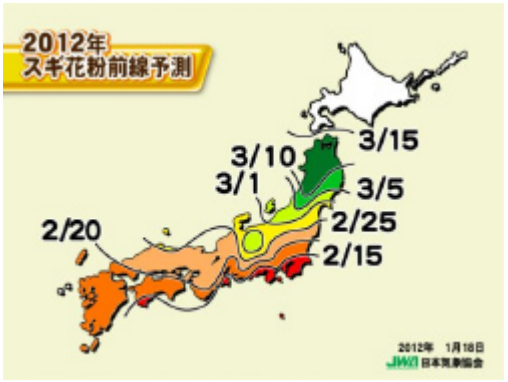
最近、経営の行き詰まりから、自分の会社が健全経営でも「取引先の倒産」という事態はいつ起こるかわかりません。独立行政法人の中小企業基盤整備機構（中小機構)が、経営セーフティ共済（正式名称：中小企業倒産防止共済制度）を、平成23年10月にスタートさせています。取引先が倒産し、売掛金債権等が回収困難になった場合に、貸付が受けられる共済制度です。不測の事態に直面したとき中小企業の皆様が迅速に資金を借りられる共済制度です。

加入の手続きは、会員となっている商工会、商工会議所、中小企業の組合などの「委託団体」、または融資取引のある「金融機関」の本支店の窓口で行うことができます。掛け金（月額\5,000～\200,000の範囲）の約10倍（上限8千万円）を有事の場合に簡単に貸し付けてもらえる制度です。

http://www.smrj.go.jp/tkyosai/

2012年スギ・ヒノキ花粉飛散量予想～今年は例年並みかやや少

今年もスギ花粉の飛来時期が近づいています。環境省の発表した予測では、2012年は中国・四国地方の一部を除いて、例年並みかやや少になるそうです。花粉飛散開始の時期は、2012年1月は全国的に気温が低く2月も引き続き低温で推移すると予想されているため、全国的に例年よりも遅くなると見込まれています。また、花粉飛散量ピーク期間は全国的に20日間ほどになるそうです。2011年は飛散量・飛散ピークとも例年を大きく上回りましたが、2012年は例年に近づくようです。ただし、近年の花粉飛散量は増加傾向にあるとのことです。2012年も一部を除いて花粉症発症の目安となる1000個/cm2（シーズン積算値）になると予測されています。花粉症の方には煩わしい季節になりますが、花粉症予防対策を実施して少しでも快適にこの季節を過ごしたいですね。



スギ花粉と放射性物質

林野庁は、スギ花粉が福島県の原発事故により放射能で汚染されていないか調査し中間報告を発表しました。それによると、放射性セシウム濃度の最も高い花粉は浪江町の1㎏当たり25万3千Bqでした。仮に、この花粉が大気中に飛散した場合、人が吸入して受ける放射線量は1時間当たり0.000192μSv/h(マイクロシーベルト)になるという試算がされています。

（参考として東京都新宿区2月2日の環境放射能水準は約0.051μSv/hです。）

２月３日は節分でした。今冬は例年に比べて寒い日々が続いていますがこよみの季節は刻々と進んでいますね。ところで節分は鬼に豆をぶつけて邪気を祓い無病息災を願う意味合いがあるといいます。ＭＡＣジャーナル編集局一同豆まきしまして、皆様の一年間の無病息災をお祈りいたしております。

編集局長：小田原次洋　アシスタント：助川・寺田
電話：03-5275-5511/E-mail： macjournal@mcagri.co.jp URL http://www.mcagri.jp